

不溶解分

不溶解分試験にはノルマルヘプタン不溶解分とトルエン不溶解分とがある。

ノルマルヘプタン不溶解分として示される物質には、カーボン、塵埃、繊維、錆、摩耗粉、鋳物砂、燃料や潤滑油の酸化生成物がある。これ等の中、最後の燃料や潤滑油の酸化生成物は、ノルマルヘプタンには不溶であるが、トルエンには溶解するので、両試験結果の差より油の劣化程度を知ることができる。（下図参照）

従って不溶解分試験では、量よりも質が重要な意味を持つが、通常定期分析試験ではノルマルヘプタン不溶解分のみを実施し、油の適用面から不溶解物質の主たるものが異物の混入によるものか、油の酸化によるものかを判断して差支えない。但し油の酸化による疑いが濃い場合には、トルエン不溶解分の結果と併せて判定する必要がある。

